県政レポートNo118

県政に活力！諫早に輝きを！

長崎県議会議員
やまぐち　はつみ
山口はつみ

発行責任者：山口　初實　　編集責任者：松永　碩哉
発 行 年 月：令和５年 11 月

３年ぶり一般質問に登壇！

コロナ禍も収束し、爽やかな秋空を迎え、スポーツの秋、読書の秋、そして実りの秋、収穫の季節を迎えています。

諫早平野の稲刈りも終了し一息ついたところですが、私の地元では２４０年の歴史と伝統を誇る伊木力みかんの収穫が始まります。

人口減少で過疎化が進む状況にありますが、収穫の季節は一年間で最高に人や車の往来が増え、地域に活気を取り戻せる時期でもあります。

県議会９月定例議会は９月１２日～１０月６日迄行われコロナ禍における経済対策等に要する６８.２億円の補正予算など１４件の議案を審議し終了いたしました。

県議会副議長を務めていたこともあり、この２年間一般質問の登壇が叶いませんでしたが、３年ぶりに登壇する機会を頂きました。

地元諫早の皆様をはじめ多数の皆様に傍聴席を埋めて頂きました。

今回は地域の皆さんの要望事項を中心に大きくは7項目の質問を起こしました。

翌日の新聞トップ面に、質問要望をしたコロナ禍で途絶えていた『長崎空港国際線の再開について』大きく報道されており、記事を読まれた、いろいろな方より、「観たよ！頑張っているね！」とご連絡激励を頂き感謝です。

主な質問項目は、１．政策評価制度について　２．２０３０年、２０４０年、２０５０年問題について　３．国道２０７号改良促進について　４．県立公園眺望改善について　５．原爆被爆者認定について　６．最低賃金制度について　７．航空路線、バス路線の利便性向上について等

大石知事をはじめ教育長、各部局長他と県の考え方、政策取組について質疑を交わしたところです。

県政に活力！諫早に輝きを！　頑張ります。

一般質問傍聴、ありがとうございました。（県庁玄関）

一般質問に登壇

9月定例議会

一般質問、各常任委員会、予算決算委員会、及び令和4年度決算審査

【一般会計補正予算に計上した主な事業】

国の内示に伴う公共事業費等の追加のほか、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金の返還、介護サービス事業所等における新型コロナウイルス感染所発生時のサービス提供体制の確保、橘湾で発生した赤潮により被害を受けた養殖事業者の支援、公共交通の事業継続支援に要する経費などについて計上。(補正予算68.2億円)

一般質問で県政を質す！

1 政策評価制度運用について

【質問】前知事の政策を受け、どのような視点で新たに政策を展開されているのか、について伺いますが、そのためには前知事の3期12年の県政運営、行政、政策に一定の点検・評価を行い、新たな行政政策の展開がなされているものと思っているが、どのような手法でどのような考え方で取り組まれているのか。

【大石知事】前知事は、企業誘致による雇用の確保や、移住者数の増加、2つの世界遺産の登録など、様々な分野で成果をあげられている。県政の発展に多大な貢献を果たしてこられた。

前知事の県政運営の方向性について、継続すべきものは継承しつつ、新たな視点、発想を取り込みながら、新たな長崎県つくりの推進に力を注いでいく。

将来を担っていく人材を育てることが最も重要なテーマであると考え、子ども施策を県政の基軸に位置づけた。おおむね10年後の在りたい姿と施策の方向性を示したビジョンの策定を進めている。

2 国道207号改良促進について

【質問】現在取組中の諫早市からの800メートル、長与町側からの800メートルの改良を早期に進めていただきたいと強く要望いたしますが、残り3キロメートルについて、早期に計画着手していただき、予算を確保していただきたい。

一刻も早く改良を望むところですが、現状と見通しについて伺いたい。

【土木部長】残り3キロメートルの事業未着手区間については、測量や設計を行っていないことから、整備に要する費用を含め今後の見通しをお示しできる状況にはございませんが、県としては、まずは事業中である佐瀬拡幅及び堂崎拡幅の進捗に鋭意努め、未着手区間については、事業中個所の進捗を見ながら検討を進めていきたい。

意見要望

知事の思いの大村湾横断道路クロスロードの前に、まず大村湾を一周する産業道路、観光道路、生活道路を日常生活において安全に、安心して活用でき、中央線があって見通しがきき、自由に行き来、往来ができる道路に改良していただくことを地域の皆さんは切望しています。

3　県立公園、琴ノ尾岳展望台の眺望改善について

【質問】諫早市多良見町の自治会長会からも要望があっている琴ノ岳展望台からの眺望改善について、進捗状況は。

【県民生活環境部長】近年、頂上にある展望台付近の樹木が成長し、大村湾方向の一部の眺望が阻害されている。諫早市側の主要木については、市が県の補助金を活用して伐採を行い、眺望改善がなされた。一方長与町側は、主要木が民有地にあることから、町が用地取得を行う場合の後押しとして、補助対象に用地費及び補償費を加える改正を行い、町へ話をしているところです。

【質問】視界を遮っている杉の木の地積は長与町にあり、地権者も長与町の方です。長与町との連携が重要になっているが。

【県民生活環境部長】長与町とは眺望改善について協議をかさねている。改正した補助対象経費の拡大についても説明した。用地取得のためには予算の確保のほか、取得後の用地の活用など、検討すべき課題があり、用地取得以外の解決策を含め、検討が必要と伺っている。

県としては眺望改善に向け引き続き協議をしていく。

4　最低賃金制度について

【質問】九州各県を見ると、福岡県が941円でBランクであり、その他の7県はCランクである。これは納得するところですが、その中で昨年まで同額の佐賀県が長崎県を2円上回り900円となっている。長崎、熊本、大分県を抜き九州で2番目に突出した結果となっている。長崎県の決定額をどう評価し、佐賀県との2円の差についてどのように受け止めているのか。

【産業労働部政策監】今回長崎労働局により決定された本県の最低賃金898円は、国の最低賃金審議会から示された目安を6円上回る過去最高の45円の引き上げ額となっており、県としても、賃金の上昇などを通じた成長と分配の好循環を作っていくうえで、これを評価している。

また、佐賀県の最低賃金900円については、佐賀県の最低賃金審議会において、労働者の賃金や企業の支払い能力などを考慮して定められたものであり、地理的に近い福岡県の賃金体系なども影響したのではないかと考えている。

5　長崎空港、国際線の再開について

【質問】昨今のコロナ禍の影響もあり、長崎空港の国際線が閉ざされている状況にある。韓国、上海、香港等、外国人観光客等の往来が消え、寂しい状況になっている。

韓国などに仕事で行きたいが、福岡経由となるなど不便な状況が続いている。

その中でソウル便の再開を待ち望んでいる人もいます。

現状と見通しは。

☆10月30日、上海線再開

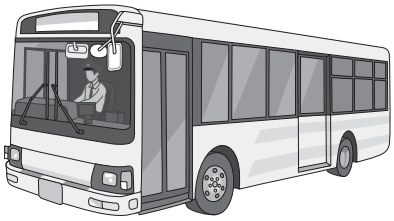
【文化観光国際部政策監】運航再開にあたっては、空港カウンターや航空機誘導などを行うグランドハンドリングの人員不足が課題となっている。県としては一日も早い国際線の再開に向けて航空会社やグランドハンドリング事業者、国の空港事務所、空港会社等と連携し、協議検討を進めてきた。その結果10月末からの定期便の一部再開に向けての受け入れ体制は調整可能な見通しであり、現在具体的な再開日程などについて、航空会社などで調整が進められている。

一方長崎～ソウル線は、路線の収支赤字等により平成31年3月から運休し、事実上撤退となっている。路線の再開に向けては、受け入れ態勢の整備を進めつつ誘致にも積極的に取り組み早期の再開ができるよう、取り組みを進める。

6 県営バス路線改善について

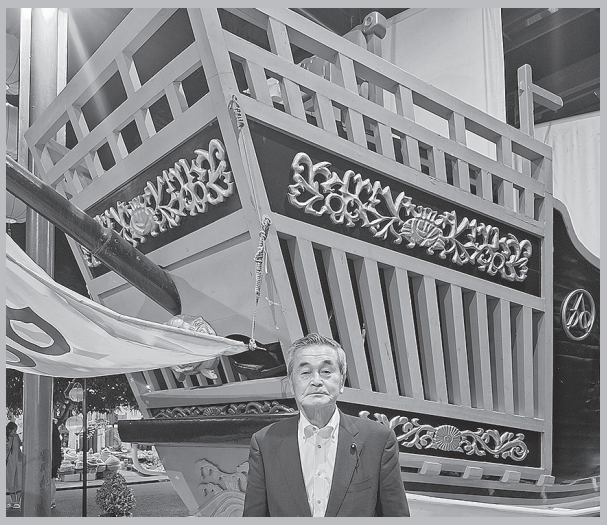
【質問】高齢化が進む中、運転免許証を返納する。その結果公共交通に頼らざるを得ない状況になっていく。高齢者の日常利用は買い物利用が主体になる。商業施設やショッピングセンターなどにバス停を作るなど、始発バス停の変更などによって利便性の高いバス路線にしていく必要があるが。

【交通局長】停留所や路線等についても諫早市と連携しながら検討を重ね、利便性の高い移動サービスの構築に向け取り組む。



活動スナップ

日越友好50周年、ベトナム友好使節団
大石知事と
（クアンナム省庁舎前）



御朱印船展示保存館
（ベトナム ホイアン市）

九州各県議会議員対抗野球大会
（サンマリンスタジアム宮崎）

コラム 九州各県議会議員対抗野球大会

長崎県チームは前年優勝の熊本県と対戦。
私は先発投手として、初回にホームランを含む２点を献上しましたが２回はゼロに抑え８対２とリードしたところでリリーフに後を託しました。
結果は熊本に追い上げられ逆転負けを喫してしまいました。課題は複数の投手陣の整備が求められます。熊本県は2年連続優勝した。

連絡先
山口はつみ事務所
〒859-0402 諫早市多良見町囲452-3
TEL･FAX **0957-43-2800**
ホームページ http://yamaguchi-hatumi.com
メールアドレス hatumi@mrh.biglobe.ne.jp
https://www.facebook.com/hatsuml.yamaguchl
ホームページ
facebook